

透析施設における性格特性とバーンアウトの関連

長崎腎病院

○岩井由紀子 山口由紀 菅実穂 米田千恵子 林田征俊 丸山祐子
澤瀬健次 原田孝司 船越哲

【目的】

2008年・2012年の本学会で、我々はメンタルヘルスにおける問題はストレス要因だけではなくパーソナリティ特性（個人の性格）との関連の可能性を報告した。今回は、バーンアウト調査と新性格検査を実施し、メンタルヘルスの状況と性格との関与を検証した。

【対象・方法】

全職員 176 名に質問紙調査を行い、有効回答の得られた 159 名を対象とした。バーンアウト状況を BM 測定法で健全群・警戒群・バーンアウト群に分類し、各群における性格特性の違いを分析した。

【結果】

過去 2 回の調査同様、健全群は社会性外交性・持久性が高く、バーンアウト群は劣等感・神経質・抑うつ性が有意差に高い傾向にあったが、今回の調査では勤続年数が長い群でもバーンアウトに陥りやすい傾向がみられた。

【考察】

4 年毎の調査で今回 3 回目となるが、全体の傾向は大きく変わっておらず、本分野の困難さが示唆されたものの、今後の対策のヒントが得られたと考える。